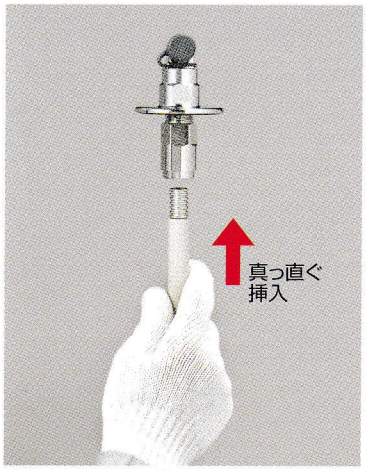
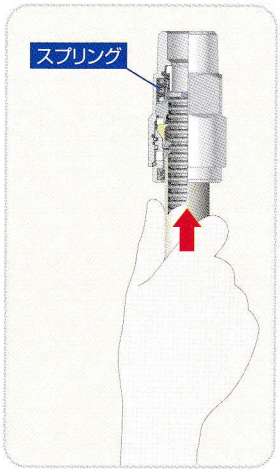
5 フレキ管の挿入

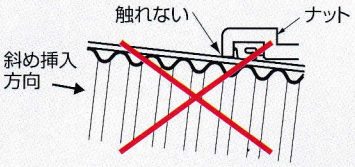




継手の奥に突きあたる(「コツン」という感触が手に伝わる)までフレキ管を真っ直ぐ挿入します。スプリングが作動する音、感触でフレキ管が適正な位置まで挿入されたことが確認できます。

⚠注意

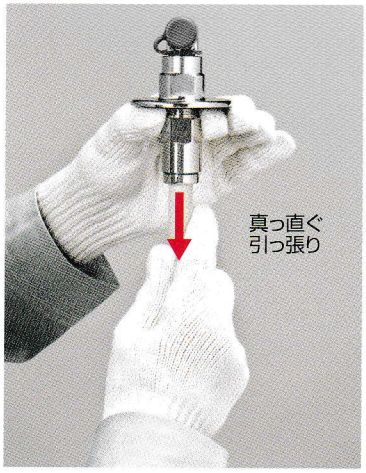
フレキ管が、ナット内面に触れないように管軸に対し真っ直ぐに挿入してください。
過度の斜め挿入は、シール部を傷つける恐れがあります。

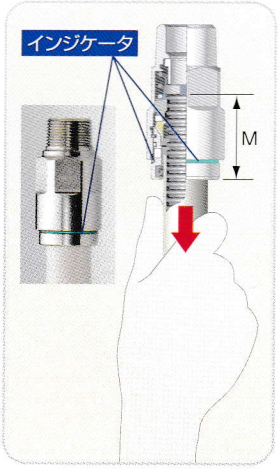


⚠警告

フレキ管長さに余裕がない状態や、テンションがかかった状態でフレキ管を継手に挿入しないでください。斜め挿入や挿入不足などの施工不良および気密不良の原因となります。

6 フレキ管の接合確認





フレキ管を「カチッ」という感触のあるところまで、挿入時と同じくらいの力で真っ直ぐ引っ張り、インジケータが出ていることを確認します。

! 強制

必ず管に引き抜き力を与え、インジケータが出ていることを確実に確認してください。フレキ管の挿入が不完全ですとフレキ管が抜けます。その場合はフレキ管の挿入不足のため改めてフレキ管の挿入作業からやり直してください。

⚠警告

- 接合確認の際、極端に斜めに引っ張らないでください。挿入不足の場合でもインジケータが誤って出る可能性があります。
- 接続空間が十分にない狭い場所など、フレキ管端部を真っ直ぐにして接続できないケースもあります。
  このときフレキ管が継手に対して軸線が合わない状態で管を挿入したり、接合確認したりすると、フレキ管が継手奥に当たる音または感触が得られない、また、フレキ管の抜け出しの原因となります。そのような場合は、配管ルートを見直してください。
  もし、配管ルートの見直しが困難の場合は、事前に管を接続したあと継手をねじ込む方法、もしくは、⑥接合確認後のフレキ管挿入長さを管理する方法があります。この時のフレキ管挿入長さ(M)の目安は下記となります。

(単位:mm)

呼び	8A	10A	15A	20A	25A
接合確認後のフレキ管挿入長さ(M)の目安	32	32	33	36	50

⚠警告

- インジケータ(継手分解用リングと兼用)は外さないでください。外しますと、ナットが抜けて気密不良の原因となります。
- ガスを通して(開栓)以降は、継手やフレキ管を回転させるなど外力を与えないでください。気密不良の原因となります。
- 燃焼器具取替え時は継手を回転しないでください。また、継手は再使用を禁止します。気密不良の原因となります。

⚠注意

施工完了後はフレキ管を押し込まないでください。(分解時にフレキ管先端を変形させる恐れがあります。フレキ管を再使用する時は「③原管の切断」の作業手順に従い、フレキ管の変形部分を切断してください。)

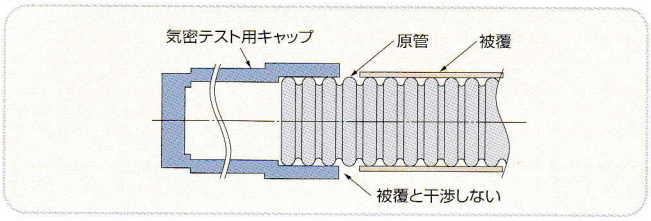
7 漏れ検査

所定の漏れ検査を行ってください。

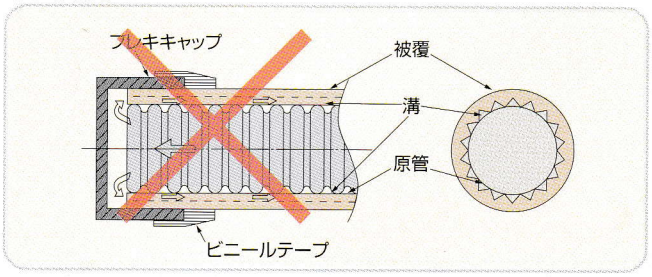
⚠注意

フレキ管を器具等に接続させていない状態で、本カタログ15頁に記載の気密テスト用キャップを使用するときは、気密テスト用キャップが被覆と干渉しない状態で、漏れ検査を行ってください。
下図に示す不具合例のように、フレキキャップを用い被覆外面をシールした状態で漏れ検査を行いますと、フレキ管の構造上、封入した気体が被覆内面と原管外面との間を通過し、継手側から外部へ流出しますので適切な漏れ検査はできません。

検査方法



不具合例



施工を行う場合には、製品に同梱の「ガス用ステンレス鋼フレキシブル管用継手プッシュインパクト® 接続要領」に記載された安全上の注意事項をよく読み、正しく接続してください。また、都市ガスに用いる場合は、所轄のガス事業者の定める配管指針に従って施工してください。